

## 2027 年 3 月期 第 1 四半期 Web 決算説明会 主な質疑応答記録

日時：2026 年 7 月 29 日(水) 12:00 ～ 12:45

出席者：執行役員 経営企画副本部長 片山 義理

### <2027 年 3 月期第 1 四半期 営業利益増減分析について>

Q: 前年同期との比較では、電子先端材料やライフサイエンスなどで事業環境が改善しているように見えるが、営業利益増減分析にはどのように反映されているのか。

A: 販売数量差は、化成品の販売減などの影響により全体ではマイナスとなった。一方、歯科器材、放熱材、高純度 IPA などは堅調に推移しており、プラスに寄与している。多結晶シリコンについては、前年同期比では販売数量が減少した。

### <2027 年 3 月期 通期予想の考え方>

Q: 2027 年 3 月期通期予想について、営業利益は前期比 30 億円減益の計画となっているが、主要因を伺いたい。また、原燃料価格の影響や販売価格改定への対応についても確認したい。

A: 原燃料価格の上昇に対しては、各製品の需給環境や契約条件を踏まえ、採算性の維持・改善に向けた対応を進めている。数量面では、電子先端材料を中心に増加を想定しているものの、1Q に発生した操業度低下や原単位悪化によるマイナス要因が通期にも影響する見込みである。また、研究開発費や減価償却費の増加も減益要因として織り込んでいる。

化成品については、各製品の需給環境やコスト動向を踏まえ、必要な価格改定に取り組んでいる。下期にかけて収益改善効果の発現を見込んでいる。IPA については、契約形態や顧客ごとに条件が異なるため一概には申し上げられないが、原料価格の動向を踏まえ、採算性の維持・改善に向けた対応を進めている。

Q: 電子先端材料セグメントの売上高の見方について、主な増収要因を教えてください。

A: IC ケミカル(IPA)は、需要が堅調に推移しており、売上高の増加を見込んでいる。また、STAC(韓国)の稼働率上昇による増収も想定している。そのほかのサブセグメントについても、総じて増収を見込んでいる。多結晶シリコンについては、サプライチェーン上の在庫調整の影響が残るものの、川下需要の動向を注視している。

Q: セメントの通期営業利益の予想は 70 億円で、前期比 25 億円の減益となっているが、主要因は何か。

A: 主に燃料価格の上昇など、コスト面での影響を見込んでいる。

### <多結晶シリコンの状況について>

Q: 多結晶シリコンの市場環境について伺いたい。シリコンウエハーメーカーからは、先端用途の需要が引き続き堅調であることに加え、200mm や 150mm 以下のウエハー、ダミーウエハーやテストウエハーについても需給がタイトとの話を聞いている。一方で、多結晶シリコンは異なる動きをしているようにも見える。多結晶シリコンとシリコンウエハーの景況感の違いについて教えてください。

A: シリコンウエハーメーカーの事業環境が堅調であることは認識しているが、サプライチェーン全体では在庫調整の影響が残っている。多結晶シリコンは比較的在庫を保有しやすい製品でもあるため、足元では荷動きにやや重さが見られる。ただし、川下需要が継続すれば、タイムラグを伴いながらも当社製品への需要にも波及してくると思っている。

<化成品の販売数量動向>

Q: 化成品の販売数量減少について、主な要因を教えてください。

A: 1Q は、原料調達の影響を受けた製品があったことなどから、生産・販売数量に影響が生じた。また、VCM については、海外市況やコスト環境を踏まえ、採算性を重視した販売運営を行った。

以上